

研究者の視点から

今回の特集記事は「婚活」。婚活とジェンダー(社会的性別)の問題との関係について、本市の男女共同参画専門委員である金井淑子先生(横浜国立大学教育人間科学部/環境情報学府大学院教授)に、研究者の視点で寄稿していただきました。

「婚活」時代、多様なライフスタイルの自由の実現に

現代版お見合い・出会いのスタイルとして「婚活」が盛んだという。TVや電話、インターネットで瞬時に地球の裏側まで、人・モノ・情報がグローバルに行きかう、人の生きる世界が飛躍的に拡大膨張した時代である。だが逆説的に「出会いの困難」や「コミュニケーション不全」が深刻化している。そうした時代だから「婚活の効用」を否定的にはいえないのかもしれない。しかしそれにして、昨今の婚活ブームが、少子・高齢化を社会的緊要課題とするところからの、自治体などが前面に立った婚活の称揚であったり、企業による商業化されたお見合い産業がここぞとばかりに伸張しているというのいかにかなものかと思う。

日本社会に両性の自由意志と相互契約に基づく恋愛結婚が一般化したのは戦後も高度経済成長期あたりからのこと、その歴史はまだ半世紀にも満たない。しかも自由で対等であるはずの男女の結婚関係に微妙に力関係の差が滑りこんでいる。実際、日本社会の戦後の性別役割分業観のもとでは、「結婚か仕事か」「子供か結婚か」の二者択一の選択を迫られたのはつねに女性たちであった。しかし80年代「女の時代」を経たあたりから女性たちの結婚観はかなり変化を見せ、結婚によって女性に義務的に背負われる重さとシングル・フリーの自由・気まますを天秤にかけ、「結婚しない生き方」を射程に入れ始めた女性たちが登場する。それが「非婚・シングル・晩婚・晩産・少産・少子」という一つの現象となっており、結果として「少子化問題」を社会問題として大きくクローズアップさせることとなった。

ひとこと「結婚しない女と結婚できない男」という言葉で男女の意識の落差が言われたけれど、昨今は、結婚しないのは女性ばかりではなく、男性の側にも意思的に「結婚しない男」や「草食系男子」が登場している。どうやら「男らしさ・女らしさ」や「男が外で女は内」とする考え方に起因する「生きがたさ感」は、じつは男女ともに共有されつつあるようだ。「女性が男性によって選ばれる社会」から、いまや「女性も男性を選ぶ社会」に、「婚活」で女性に選ばれるようにと「自分磨き」をする男性の登場。さらに欺瞞的な家庭内別居を続けるよりは、しっかり「離婚」して、困難でも新たなスタートラインへ立ちとうと女性たちは意思的な選択を始めている。これらは社会の構造改革がジェンダー関係にも確実に及んでいるとみるべき現象ではなかろうか。だからこそ、この「婚活」時代が、少子対策の具にされたり商業主義に流されたりせずに、言葉の真の意味で、人々の多様な生き方が許容される社会——お一人様で生きる、カップルや個人が子を産むか産まない、シングル・マザーとなる、キャリアでばりばり生きる、まったり生きる…などの自由——を拓くことにつながっていくことを切に期待したい。

金井淑子先生のプロフィール

横浜国立大学教育人間科学部/環境情報学府大学院 教授
哲学/倫理学 女性学/ジェンダー研究
最新著『異なっている社会を 女性学/ジェンダー研究の視座』明石書店 2008年



横須賀市からのお知らせ

性別による人権侵害に関する苦情申し出制度のご案内

条例に基づいて市長から委嘱された「男女平等専門委員」が書面での申し出により相談をお受けします。申し出の内容によっては調査を行い、調査先に助言、報告、是正の要請などを行います。

申し出ができるのは、「市が実施する男女共同参画に関する施策や、他の施策で男女共同参画社会の形成に影響を及ぼすと認められる施策について不服がある場合」や、「セクシュアル・ハラスメント、女性への暴力など男女共同参画社会の推進を阻害する恐れがあり、相手側に改善を求める場合」で、市内で1年以内に発生した事案です。裁判所で係争中のものなど対象とならない事案もありますので、詳しくは電話で人権・男女共同参画課(Tel:046-822-8228)にお問い合わせください。



デュオよこすか便り 「デュオよこすかまつり“きれい体験”」報告

6月7日(日)、横須賀市立総合福祉会館において全館挙げてのイベント「ふれあいフェスティバル」が開催されました。同館5階にある「デュオよこすか」も毎年「デュオよこすかまつり」と称してさまざまな企画をおこなっています。今年は鎌倉早見美容芸術専門学校の生徒さんにご協力いただき、「きれい」を体験してみよう!をテーマに、メイクアドバイスなどを訪れた市民の皆さんに楽しんでいただきました。

メイクアドバイス



学生さんだから質問がしやすいし、頼みやすいという声も(^^)

ネイルアート



お母さんのようにやってみたいお年頃...

ハンドマッサージ



ご夫婦並んでリラックス! お好みのマッサージオイルが選べて大好評でした!

当日は、メイクアドバイス24名、ネイルアート72名、ハンドマッサージ76名の合計172名の方に体験していただきました。「キレイでいたい」という気持ちは、女性に限らず人々を元気にする力があると思います。

ココロとカラダのケアをして、内からも外からも元気を出していきましょう!

鎌倉早見美容芸術専門学校の学生さんに聞きました

鎌倉早見美容芸術専門学校では、男女問わず、学んだ技術を生かした仕事に就く、そんな将来の「夢」に向かって頑張っている学生さんがたくさんいます。今回お手伝いいただいた学生さんにお尋ねしました。(参加していただいた学生さん14人中11人の回答)

1. 男女共同参画という言葉を知っていますか?

はい(4人) いいえ(6) 未回答(1)

言葉は浸透していないものの、すでに考え方や行動は男女共同参画の皆さんでした。将来が楽しみです。

2. 職業(美容関係)に性別役割分担を感じますか?

はい(2人) いいえ(7) わからない(2)

女性は結婚により期待されないからという意見もありました。

3. 資格を生かして将来働きたいと思いませんか?

はい(10人) わからない(1)

美容関係の進路を選んだ理由として、「大好きな美容を仕事にしたかったから」「自分もキレイになりたいし、人もキレイにしたいから」などがありました。

鎌倉早見美容芸術専門学校のHPは、<http://www.hayami.ac.jp>

将来の夢や抱負をお願いしたところ、「たくさんの人を笑顔にしていきたいです」という回答がありました。今回のイベントでも多くの方を笑顔にしてみました(*^o^*)。

デュオよこすかは、横須賀市の男女共同参画推進の拠点施設として、「横須賀市男女共同参画推進条例」で位置づけられています。場所は総合福祉会館(本町2-1)の5階です。

女性も男性も、社会の構成員として個性と能力を發揮できる社会。その実現のための足掛かりにさせていただけるような施設を目指しています。

蔵書数は約1000冊。夫婦の問題、仕事、子育て、心や体に関するものがあります。資料は、男女共同参画に関する統計や自治体の取り組み計画などがありますので、自由研究や調べ物にご利用ください。数人で使えるテーブルもあります。

また、女性のための相談室もあります。

デュオよこすか

〒238-0041 横須賀市本町2丁目1番地
横須賀市立総合福祉会館5階
電話046-822-0804

開館時間 平日・土曜日 9:00~21:00
日曜日 10:00~17:00
休館日 年末年始(12月29日~1月3日)

図書貸出(2週間まで3冊まで)、
ミーティングスペースもご用意。

女性のための相談室

電話046-828-8177(デュオよこすか・相談専用)
女性が日ごろ抱える人間関係や生活上の悩みなどについて、女性の相談員が相談をお受けします。

*一般相談(面談・電話) 毎週月・水・金曜日
午前9時~午後4時

*法律相談(面談※予約制) 毎月第3水曜日
午後1時半~午後4時半

法律相談の予約は、一般相談でお受けします。
(お一人の相談時間は40分です)



◎この広報紙は10,000部作成し、1部あたりの印刷経費は19.5円です。
◎この広報紙は、グリーン購入法(国等による環境物品等の調達に関する法律)に基づく平成21年度横須賀市グリーン購入調達方針の判断の基準を満たす紙を使用し、かつ、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料【Aランク】のみを用いて作製しています。
地球温暖化対策 ← できることはじめよう → 男女共同参画

特集 婚活

New Wave 27号
平成21年(2009年)10月発行
*** 今号の記事 ***
特集「婚活」
「デュオよこすかまつり“きれい体験”」報告 ほか
【発行】横須賀市市民部人権・男女共同参画課
〒238-8550 横須賀市小川町11番地 電話046-822-8228
e-mail: we-pc@city.yokosuka.kanagawa.jp
HP: http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/gender/



かんたん結婚検定

「婚活」の前に……現在の結婚に関する数字をチェック☑!

● 現在、お見合い結婚するカップルの割合は全体の(Q1: □@6、□@16、□@26) %、恋愛結婚するカップルの割合は全体の(Q2: □@67、□@77、□@87) %である。
《国立社会保障・人口問題研究所の第13回出生動向基本調査の結果より》

● 地方の未婚女性の半数以上および都会の未婚女性の3人に2人は400万円以上の年収を結婚相手の男性に求めているが、実際にそれだけの年収を得ている未婚男性は、地方で(Q3: □@20、□@30、□@40) 人に1人、都会で(Q4: □@3、□@5、□@7) 人に1人しかないのが現実である。
《『婚活』時代(2008年、ディスカヴァー携書)の山田昌弘氏の調査結果より》

● 現在、平均初婚年齢は、男性が約(Q5: □@28、□@30、□@32) 歳で、女性が(Q6: □@28、□@30、□@32) 歳と年々上昇する一方(=晩婚化)、夫婦の年齢差は若干縮まる傾向にある。
《厚生労働省の統計(平成17年度)より》

● 現在、20代後半の男性の約70%が未婚であり、30代前半の男性の約(Q7: □@30、□@40、□@50) %が未婚である。また、20代後半の女性の約60%が未婚であり、30代前半の女性の約(Q8: □@30、□@40、□@50) %が未婚である。
《平成17年度の国勢調査の結果より》

● 現在、結婚適齢期といわれる20代後半から30代前半の世代において、正社員の男性の未婚率は(Q9: □@36、□@46、□@56) %であるが、契約・派遣社員の男性になると(Q10: □@70、□@80、□@90) %が未婚であり、パートやアルバイトの男性となると96%が未婚であることから、この世代の男性は雇用形態が正社員かどうかで結婚に格差があるといえる。
《『ロストジェネレーション』(2007年、朝日新聞社)の調査結果より》